社会知性開発研究センター／東アジア世界史研究センター

「平成22年度シンポジウム」開催

4世紀～7世紀の日本 朝鮮

「人」「モノ」の交流考察

11月20、21の両日、神田キャンパスで社会知性開発研究センター／東アジア世界史研究センター（代表＝荒木敏夫文学部教授）の平成22年度シンポジウム「モノの移動と古代東アジア世界―朝鮮半島と日本列島を中心に―」が開催された＝写真。合わせて270人が来場し、熱心に聴講した。

同センターは「古代東アジア世界史と留学生」をメーンテーマに、文化や文物の媒介者となった留学生の活動の全貌と、各国に与えた影響の解明を目指している。

今回は出土品などの「モノ」にスポットを当て、考古学を中心に文献史学を交え、4人の講師が4～7世紀の日本列島～朝鮮半島間の人、モノの移動・交流を考察した。土生田純之文学部教授と高久健二同教授が司会・進行を務めた。

21日は、中野高行・東京農業大学第三高校教諭が「推古朝と帝国性」と題し、当時の東アジアの情勢と、日本の政情の変化について説明。続いて亀田修一・岡山理科大学教授が4世紀から7世紀の西日本地域を中心に「考古学からみた日本列島と朝鮮半島の交流」について、スライドを見せながら解説した。最後に2日間の締めくくりとして、討論が行われ、来場者とも意見を交わした。

20日の講師と演題は次の通り。▽「出土遺物にみる百済の対外交流」山本孝文・日本大学准教授▽「新羅の外来系文物」宋義政・韓国国立金海博物館館長

日高義博理事長・学長

「読書と人生」で講演

いるま生涯学習フェスティバル

11月14日、埼玉県の入間市産業文化センターで「国民読書年記念文学講演会」が行われ、日高義博理事長・学長が「読書と人生」をテーマに講演した。「第16回いるま生涯学習フェスティバル」の記念講演も兼ねており、180人を超える市民が来場した＝写真。

日高理事長・学長は同市の情報公開・個人情報保護審査会の会長を務めるなど、市とのかかわりが深い。講演では、「小学生の時に読んだ昆虫の本が、読書の一番古い記憶です。今もライフワークとして『万葉集』を読解し、読書を楽しんでいます」と、これまでの読書人生と「娯楽としての読書」について話した。最後に「文字があって初めて知識、知恵の伝授ができる」と文字・活字文化や読書の重要性について論じた。

「専修史学50号」・歴史学科創設記念講演会

卒業生ら170人来場

学部の歩み振り返り

「世界史論」を考える

▲ 歴史学科の歩みを語る矢野教授

▲ 世界史の問題点を考察した中村元教授

▲ 歴史学会会長の内藤教授が総括

専修大学歴史学会誌『専修史学』50号発行と文学部歴史学科創設を記念し、11月6日、生田キャンパスで講演会とシンポジウム「歴史学の過去、現在、未来」が開かれた。講演会では、矢野建一文学部教授が、1967年に史学コースとしてスタートし、2001年の歴史学専攻設置を経て、2010年に宿願の創設を果たした歴史学科の歩みを振り返った。

シンポジウムは「世界史論の現在を考える」を共通テーマに3氏が講演。近江吉明文学部教授は「戦後世界史論60年の歩みから」と題し、民衆の無数の営みや知恵の中から世界史につながるような事実を探り出す「民衆の世界史」像の構築を目指すと語った。

中村平治元文学部教授はインドの独立運動家ネルーと歴史学者上原専禄の世界史論に焦点を当て、アジア・アフリカの歴史に向き合うことで提起されるヨーロッパ中心的世界史の問題点を考察した。

土井正興ゼミに学んだ周藤新太郎さん（千葉県立東葛飾高校教諭＝昭59文）は「世界史教育の現場から」と題し、世界史教育の課題について報告。また世界史への関心を促すアプローチとして授業に取り入れている「五秒で書ける世界地図」を披露した。総括は歴史学会会長の内藤雅雄文学部教授が行った。

「歴史学科ホームカミングデー」と称して開催し、約170人の卒業生らが聴講。シンポジウム終了後に行われた懇親会には、元教員や在学生も含めて約120人が参加し、思い出を語りあいながら親睦を深めた。

近江　吉明 文学部教授

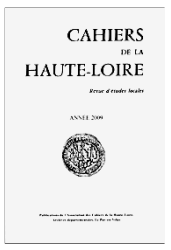
フランスのオート-ロワール県史誌に論文掲載

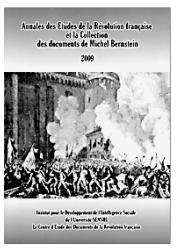
注目される本学所蔵の仏革命史料

近江吉明文学部教授のフランス革命に関する仏文論文がフランスのオート-ロワール県史誌 CAHIERS DE LA HAUTE-LOIRE（2009年版、2010年6月刊＝写真・右）に掲載され、反響を呼んでいる。

同誌は年に1回発行され、歴史学者に影響力を持っており、近江教授のほかに研究者12人の論文が寄せられている。

本学は18世紀末のフランス革命に関する膨大な史料「ミシェル＝ベルンシュタイン文庫」4万数千点を所蔵。フランス国立図書館に次ぐ史料とされており、仏国に存在しない希少史料がかなりあることが昨今の研究で判明している。





近江教授の論文は、フランス革命時、オート-ロワール県ル-ピュイ市の第三身分（一般庶民）の陳情書について書かれたもの。オート-ロワール県の文書館にも残っていない史料が同文庫に含まれていることを明らかにしている。

同誌に発表以来、フランスから近江教授のもとに当文庫に関する問い合わせが多く寄せられ、「仏国での関心の高さが感じられる」と同教授は話す。

また、ルーアン大学からフランス革命史が専門のミシェル＝ビアール主任教授が12月に来日。両教授は共同研究を行っている。

近江教授が研究代表を務める「『ミシェル＝ベルンシュタイン文庫』の史料学的研究」プロジェクトは、日本私立学校振興・共済事業団の「学術研究振興資金」事業に09年度から選定されており、その中間報告書（仏文）も刊行された＝写真・左。

旧司法試験に本学から1人合格

平成22年度旧司法試験第二次試験の合格者が11月11日、法務省司法試験委員会から発表され、本学から1人が合格した（昨年度も1人が合格）。

今年度は1万3223人が受験し、合格者は59人（前年度92人）。合格率は0・45%だった。

公認会計士試験

本学から17人が合格　在学生は7人

平成22年の公認会計士試験の合格者が11月15日、金融庁の公認会計士・監査審査会から発表され、本学から3年次生3人、4年次生4人を含む17人の合格が確認されている。

なお、合格者のうち在学生7人と卒業生7人はエクステンションセンターの会計士講座受講生。

※合格者の詳細は次号に掲載します。合格者情報をお持ちの方はエクステンションセンター事務課にご連絡ください。☎044（911）1268

専修大学玉名高校・専修大学

「社会知性フォーラム」開催

熊本県玉名市で12月23日、専修大学玉名高校と本学の共催で「社会知性フォーラム―子どもと教育―」が開催される。

日高理事長・学長の基調講演に続き、杉山博亮本学法科大学院客員教授が「法感覚を養う」、小峰直史文学部教授が「学ぶ意欲を高める―ファシリテーションの可能性―」をテーマに講演する。

▽日時＝12月23日（木・祝）13時30分～▽会場＝玉名市民会館大ホール▽定員＝800人▽問い合わせ先＝専修大学玉名高校☎0968（72）4151

最終講義のご案内

〈12月8日現在〉

学部学科に関係なく、参加できます。卒業生もご参加ください。

○泉武夫経済学部教授
▽日時＝12月22日（水）3時限▽場所＝生田525教室（5号館）▽テーマ＝私の日本資本主義論

○梅本吉彦法学部教授
▽日時＝1月11日（火）2時限▽場所＝神田301教室（1号館）▽テーマ＝情報化社会における民事訴訟法―人の絆と研究の道程―

○内藤雅雄文学部教授
▽日時＝1月18日（火）4時限▽場所＝生田420教室（4号館）▽テーマ＝「ガンディーとファシズム」

新しいクオリティへ、新しいスピードで。『りそな』
HUMAN COMMUNICATION
りそなの窓口は
平日午後5時まで営業。
口座開設・お預入れ・ご解約
などもお取扱いいたします。
※一部お取扱いができない業務がございます。詳しくは店頭までお問合せください。
りそな銀行
RESONA
九段支店 TEL.03-3261-1185
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6

MIZUHO
みずほ信託銀行
Channel to Discovery
信託のちからが、
お客さまの夢をかなえます。
信託のちから、それは
お客さまから「信じて託された」大切な資産を
責任をもって管理・運用し、育てていくちからです。
みずほ信託銀行は
「お客さまから最も信頼される信託銀行」をめざして
信託のちからをフルに発揮します。
ホームページ http://www.mizuho-tb.co.jp/